

№4：観光イベントに出展

6月下旬の週末の2日間、香港の將軍澳（チョンクワンオウ）にある大規模ショッピングモールで、訪日旅行取り扱い最大手の旅行会社「EGL Tours」が主催する観光イベントが開催された。將軍澳は中心部の繁華街とは異なり、比較的新しく開発されたニュータウン。香港のファミリー層も多く住み、日本へのインバウンド（訪日客）の主体となる人々が多い地域だ。

主催者のEGLは、これまでも本県を訪れるツアーを多数催行し、積極的に送客を行ってきた。社長の袁（えん）氏は、外国人旅行者数の増加を促進する役割を担う“とちぎインバウンド大臣”でもある。

イベントには日本から自治体や企業が参加し、中国やタイなどからもPRブースが並んだ。両日とも開始前から行列ができ、商品販売ブースは、団体や個人客など種類を問わず常に人だかり。海外旅行好きと言われる香港の人々の熱意を目の当たりにした。

栃木県は、ステージ横の人通りの多い区画にブースを設置。パンフレットの配布や説明の他、パネルで県内観光地の魅力を紹介した。イチゴのおもちゃを使ったゲームや、とちまるくんのステージイベントなどを通して、多くの香港人の関心を惹きつけることができた。「鬼怒川にまた行きたい」などの声も聞き、本県を含む日本の人気の高さを改めて感じた。

一方で香港では、日本で災害が起きるという「予言」が大きな影響を及ぼしている。街の書店には発端といわれる漫画が山積み。日本政府観光局（JNTO）の発表によると、5月の訪日外国人旅行者

数は、各地域が軒並み過去最高となる中、香港だけが前年比で減少。フライトを減便した航空会社もある。関係機関が冷静な対応を呼びかけているが、すぐには収束を見通せないと言われる。

海外旅行への関心の高さを目にしながら悔しい限りだが、予言の日を過ぎた今、ついに香港観光業界も動き出している。EGLをはじめとする大手の旅行会社や航空会社が訪日旅行商品や航空券のキャンペーンを開始。交流サイト（SNS）で日本各地の写真を投稿し、ライブ配信を行うなど、平常の日本のPRも併せて始まった。

元来、日本好きで知られる香港の人々である。このような業界の動きがインバウンド復活ののろしとなることを期待したい。そして、これまでの分を一気に挽回できるよう、県香港事務所もより一層のPRを行っていききたい。



【EGL イベントでの本県ブースの様子＝6月21日、香港・將軍澳】